

●ソ連自治体との交流を求めて 八四年十月

長洲知事の命により、ソ連の自治体との友好提携の可能性を調査するため、知事秘書の蔵君、秘書室調査班の宮川さん、通訳の加藤始氏とともにモスクワ、ノボシビルスク、タシケント、オデッサ、レニングラードを訪問した。私は内心、県の「頭脳センター構想」を推進するためにも、シベリアの中心で、アカデムゴロドク（学術都市）のあるノボシビルスク州との提携を望んでいたが、州副知事から「海外との提携は州政府の任務とは考えていない」との頑なな態度を表明されて失望した（後に「再考したい」と言ってきたが、応じなかった）。

中央アジアのウズベック共和国タシケント州はつよく提携を望んでくれたが、某県との提携話が進行中で、神奈川がその気なら乗り換えてもいいといった雰囲気だったので敬遠した。黒海に面し古くからの自由貿易港を持つウクライナ共和国オデッサ州は官民一体の熱烈歓迎を展開してくれた上、神奈川の事情にも通じ、提携への熱意も真摯だったので好印象を持った。モスクワ、レニングラードはすでに提携先が多く、当方も関心が薄かったので表敬訪問程度に止めた。この結果、ウクライナ共和国オデッサ州を提携対象候補として知事に進言した。

十月のシベリアの気候厳しけり 粉雪舞いて撰氏二度なり

粉雪の舞い散るノボシビルスクの 教会で祈るアフガン行き兵士の母

（ソ連のアフガン侵攻は一九七九〜八九。数万の犠牲者を出し、成果なく撤退）

北国の気候のごとく冷たかり 州副知事は交流を謝絶す（ノボシビルスク州政府にて）

シベリアの密林（タイガ）の中の学術都市 主な学者はモスクワに居ると

（学術都市の実態に失望。以上、ノボシビルスクにて）

「産みの親以外はすべて手に入る」 タシケントのバザール熱気溢れる

東西交流の広場で小石拾いきて 日付を入れて記念品とす

タシケントどてらのルーツ贈られて その場で羽織り記念撮影

(タシケントは辺境の地と思っただが、中・南アジアへの交通の要衝)

夕食に羊の料理つぎつぎに これぞ中央アジアの味か

タシケント日本人に似た人多し 亡き兄そつくりと街で出会えり(以上、タシケント)

オデッサは温かきかな我らをば 古き友人のごと熱くもてなす

オデッサ港わが県製の鋼管あり 遠くて近き経済のきずな

オデッサの「十月広場」で挨拶す わがロシア語に三万人の拍手(以上、オデッサ)

ネヴァ河の水面(みのも) 黒々寒々と 初冬の陽射し早くも衰う

朝霧のレニングラードの公園に アンナのごとき女性佇つ見ゆ

独軍を破りし丘にわが植えし 記念樹高く十七年流る(以上、レニングラード)

<追加>国際ビエンナーレ児童画展のためオデッサに行く 九十年五月

オデッサの空港に降りて赤絨毯 踏みしめ行けば歓迎の人波

オデッサの歓迎の夕べは楽しかり 歌あり劇ありダンスもありて

小学生日本の歌を合唱す われ駈け寄りてリーダーと握手

われもまた歓迎にこたえ朗々と ウクライナ民謡歌いきつたり